

新・旧住民、一緒に祭り

浦安市の新住民が住む「新町」と、漁村時代からの住民が住む旧市街地の「元町」の住民が一緒に小さな夏祭りを企画した。祭りの名前は「夏の境川、ボート遊びと手作り灯籠(とうろう)流しの夜」で、8日に市内を流れる境川の江川橋からしおかせ歩道橋の間で開かれる。
(堤恭太)

浦安の「新町」「元町」が8日に



子どもたちが集まって境川に流す灯籠をつくった＝浦安市の日の出公民館

橋から放水「滝流し」／灯籠流し 街のシンボル境川で

祭りを主催するのは、浦安の街づくりを考えている新町の住民を中心とした市民団体「海・まち・デザイン」と、元町の境川沿いにある堀江1丁目自治会と猫実東自治会。

「海・まち・デザイン」が5月に行った、ボートに乗って境川から東京湾に出るクルーズの記事をみた堀江1丁目自治会が「海・まち・デザイン」に連絡をとり、今回の夏祭りの企画に発展した。

高級マンション街に住む住民がつくる「市民団体」と長年住み続けている住民の地域コミュニティションである「自治会」。本来なら肌合いが合わない団体同士だが、元

町から新町まで、市を貫くように流れる境川への思いが深かった。

元町側は「かつては釣りなどをして遊んだ境川を、祭りなどを通じて市のシンボルとして再生させたい」と考え、新町側は「自分たちが住むことによって境川はコンクリート護岸の味気ない川になってしまった。そこを市民の心よりどころにしたい」と様々なイベントを企画している。

祭りでは、元町側がポンプで川の水をくみ上げて橋から放水する「滝流し」を担当し、ボート遊びや灯籠流しは新町側が受け持つ。2日には子供たちを集めて、日の出公民館でペットボトルを使った灯籠

を作った。

両者とも「初めての試みなので、どんな風になるかわからない。でもこれをきっかけに両者でいろいろなことができれば境川も喜んでくれると思う」と話している。

祭りは、ボート遊びが午前10時～午後4時で大人2000円、子供1000円。滝流しは

午後の1時、3時、5時、6時半に放水する。灯籠流しは午後7時～8時、灯籠はすべて回収する。